

地震被害に伴う「いちご苗の生育遅れ」対策について

令和 8 年 9 月 9 日
熊本県農業技術課
農業革新支援センター

令和 8 年熊本地震の影響により、いちご育苗において、かん水等に用いる水の供給が困難な圃場が発生しています。現在、かん水不足や管理作業の遅れから、苗の生育遅れや充実不足が生じています。つきましては、これらへの対応として、年内の収量確保に必要な「定植から年内にかけての対策技術」を取りまとめましたので、ご活用ください。

1. 定植前の対応

花芽検鏡を必ず実施し、花芽分化（肥厚後期以降）の確認から定植まで 5 日間以上の期間がある場合は、花房の充実を図るため、速やかに苗に液肥（500 倍程度）を施用する。

2. 定植後の対応

活着を促進するため、根鉢とほ場の土に隙間を作らないように丁寧に植え付け、根回しかん水を複数回行う。定植 3～5 日はクラウン部が乾かないよう十分なかん水を行い、定植 7～10 日以降、活着が確認された後には、根張りを促すためかん水量をやや控えめに管理する。特に苗の充実が不足している場合は、速やかな活着を促すため、定植後に液肥（500 倍程度）を施用すること。

※定植後の用水が十分に確保できない場合

本圃でのかん水をスプリンクラーで行っている場合は、散水や点滴チューブ方式に変更する。点滴かん水の場合は、土壌の乾燥を抑え、水の浸透を促すためにチューブ上面をマルチで被覆する。また、限られた水量で管理するため、土壌の乾燥や植物の蒸散を抑える遮光資材等の活用を検討する。

3. マルチおよびビニール被覆について

年内の収量確保に向けて「株づくり」を優先し、マルチおよびビニールの被覆作業を遅延なく実施する。マルチ被覆については、適期に実施できるよう、作業性や労力面に優れる「三分割方式」を検討する。ビニール被覆は、最低気温 8℃を目安に行うが、生育が遅れている場合は、やや早めに被覆して、葉の展開速度を維持する。

4. 年内の管理（摘果(花)）について

摘果(花)処理は、原則として頂花房と第 2 花房の花房間葉数、および草勢に応じた着果数とする。ただし、草勢が弱く株の充実を図る必要がある場合は、強めの摘果（2 L 以上）を行う。場合によっては、頂花房をすべて除去し、株の充実を図る。

○参考として JA やつしろ営農部、県南広域本部農業普及・振興課、農業技術課農業革新支援センターで作成した対策資料を添付します。

地震被害に伴う「いちご苗の生育遅れ」対策

基本方針：「水・温度・管理作業」の3つを意識して
遅れた苗を早く充実させ、頂果房（1番果）の収穫に繋げる



マルチ被覆

天井被覆

①定植前 ～良い苗を作る

定植まで約20日間



葉・株

葉色を維持



花芽

花芽検鏡を確実に行う

花芽検鏡結果（肥厚後期）
以降を確認し**并当肥えを施用する**



苗選び

花芽苗の大きさを把握し
サイズ別に選別・定植

苗の大きさを揃えることで、
その後の管理がしやすくなる。

②定植後 ～まず根を充実させる

最優先は「活着」と「根づくり」

①丁寧な植え付け

- ・根鉢と圃場の土に隙間を作らない
- ・植え付け後はしっかり灌水

②丁寧な灌水

定植時（水）・翌日・3日後（液肥）

定植直後

根鉢と土を密着させる

定植3～5日

クラウン部が乾かないよう十分灌水
→活着を促進 液肥：アミノキッポ400倍

定植7～10日以降

活着を確認後、灌水をやや控え、
根を伸ばす管理 液肥：アミノキッポ400倍

水量が十分でない場合は、**スプリンクラーから散水チューブや点滴灌水に変更。**
点滴灌水の場合は、
チューブ上面にマルチを被覆（三分割）
蒸散を抑えるため、遮光資材の被覆を検討

確実に
実施

③マルチ被覆 ～遅れないことが大事～

目的

地上部と地下部のバランスを取りながら株を充実させる

三分割方式マルチ

一度に全面を覆うのではなく

中央 → 両サイド → サイドを下げる

と段階的にマルチを被覆する。急激な蒸散と徒長を防ぐ。

なぜ？

早く全体を覆うと、地上部だけが先に大きくなる
→根の充実が追い付かない
→株のバランスが崩れる

三分割方式マルチの進め方（例）

①中央部

②中央＋
両サイド部

③サイドを下まで
下げる



根を作る → 株を充実させる → 徐々に被覆

④ビニール被覆 ～気温を見て判断

被覆の判断基準



最低気温「8℃」を目安

天気予報を確認して天候の傾向を把握
最低気温「8℃」を下回る時期を判断
※葉の展葉速度を維持する

被覆後の管理

①頂果房の開花後は降雨に当てない。

②気温が下がるまではサイドを開放。

③生育が遅れている場合、夜間のみ保温



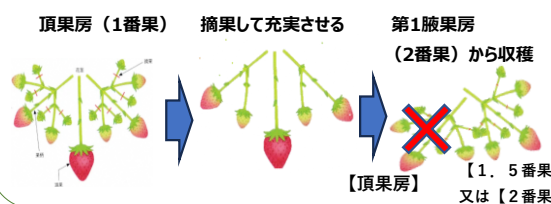
作業スケジュールのイメージ

時期		9月		10月		11月			
		下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
通常方式 (全面マルチ)	作業	 定植		マルチ被覆開始(全面) サイドは上げる	出蕾	・開花 ・ビニール被覆 マルチサイドを下げる		収穫開始 	
	ポイント	活着・根づくりを最優先		株を充実させる		開花後は降雨に当てない		収穫につなげる	
三分割方式 マルチ	作業	定植		マルチ被覆 (中央部のみ)		マルチ被覆 (中央＋一部サイド) ビニール被覆	マルチ被覆 (サイドまで下す)		収穫開始 
	ポイント	まずは根を伸ばす時期	中央部を被覆して 地温確保・乾燥防止		株の充実に合わせて 様々に広げる		全体のバランスが整ったら 全面被覆へ(開花が目安)		収穫につなげる

⑤年内の管理

頂果房の果数は、2L以上となるように
摘果し、株の充実を図ります。
場合によっては、1番果房を取り除き、
第一腋果房（2番果）から収穫を行います。
この管理をすることで草勢を充実させ、
結果的にはトータル収量を増加します。

摘果のイメージ



管理のポイントまとめ

- ☑ 活着・根づくりを最優先
- ☑ 三分割方式マルチで株を充実させる
- ☑ 最低気温8℃を目安にビニール被覆
- ☑ 頂果房を確実に収穫し年内収量・品質を確保

一番大事なポイント

根を作る

（定植後の活着・灌水）

株を充実させる

（定丁寧な管理）

三分割方式マルチ

（株の安定と根張り促進）

気温8℃を目安に

天井ビニール被覆

頂果房を確実に

収穫

年内の収量・

品質を確保